

企業幼稚園の設立

シュメアザール社は、働く母親達の負担を軽減し子供達のために企業幼稚園を設立する。

数多くの企業では戦略として「能力集中」を掲げているが、仕事に属さない他の課題は外部企業あるいはサービス部署の責任者へゆだねたり、費用面から従業員への福利厚生を長い間行っていない場合が多い。シュメアザール社はそういった流れに逆行し、会社敷地内といった最寄りに企業幼稚園を開設する。2007年8月末に移動式クレーンにより着工され、11月に大まかに建物が出来、2008年1月初旬に子供達が入園する予定である。

ヴッパータールにある本社の従業員の70%が女性という事情もあり、シュメアザールグループ社長ハインツ・シュメアザール氏は、「仕事と家庭のより良い協力」を目的としている。まさに、シュメアザール社がヴッパータールで製造し、機械・設備装置・エレベータ技術において世界中で取付けられている産業スイッチ装置の取付けは、非常に多く（特に若い）の女性達が行っている。家庭の協力を得るか、あるいは、仕事の前後に遠かれ近かれ家事を済ませなければならないため、働く母親達は自分の子供達の面倒を見ることと仕事との調整が難しい場合が多い。

2008年1月以降18人の子供達が企業幼稚園で7時～18時まで預けられ、働く母親達の負担が軽減されるだけでなく、同様に重要なのが子供達への教育上の観点である。ハインツ・シュメアザール氏は自身祖父として子供達がいかにかのびのびと遊びながら、そして素早く学習可能であるかを日々実感し、幼稚園でも実行すべきとし、また、英語を話せる先生を探し子供達が英語の話し方を学べるようにするなど小学校への準備期間としての役割も果たす。

既に2年前に企業幼稚園設立は計画されたが、当時は既に他の場所に子供達を預けていたためか、あまり従業員の賛同を得られなかった。しかしながら、今は異なり、18席の空きの内既に14席は埋まっている。また、ハインツ・シュメアザール氏によると、空きがある場合は、近隣企業の子供達も受け入れ可能である。

企業幼稚園は企業にとって高額な負担の原因となる。両親による会費負担はほんの一部のため、シュメアザール社でも会社敷地内の独自の設立への年間の維持費は6桁台とされ、従業員にとっては既に大なる福利厚生となっている。ハインツ・シュメアザール氏によると、子供達は我々の未来であり、良い教育がますます重要となるため、教育の悲惨さや劣悪な教育水準に対して悪く言うだけではなく、対処していかなければならない。そのため、幼稚園を設立し、子供達がのびのびと知識を身につけるだけではなく、快適に過ごせるようにすべきことが沢山ある。

参考：Schmersal News 28.08.2007

<http://www.schmersal.com/cms1/opencms/html/de/news/index.html?id=52>

本件、お問合せは SCHMERSAL 日本支社迄。